

# 世田谷 市民大学

2025年度後期募集案内



**申込締切日 7月15日(火)必着**

※追加募集を8月6日(水)まで行う場合があります。

「世田谷市民大学」は、18歳以上の区民が誰でも参加できる区民のための学習の場です。

政治・社会・経済・人間に関連した幅広いテーマを取り上げ、地域社会に密着した問題や、市民自治の担い手に必要な現代社会の諸問題に対する確かなものの見方を培うよう、講師陣が丁寧に系統的な講義・ゼミを行います。

## 世田谷市民大学 案内図



### 交通ご案内

#### 電車

東急田園都市線「池尻大橋駅」  
南口より徒歩約8分

#### バス

①番の「池尻」バス停より徒歩約7分

②番の「三宿」バス停より徒歩約7分

(渋谷駅～上町駅・用賀駅・祖師ヶ谷大蔵駅・  
成城学園前駅西口・調布駅南口・等々力・  
田園調布駅・二子玉川駅 他)

③番の「三宿」バス停より徒歩約7分

(渋谷駅～野沢龍雲寺(循環)、  
渋谷駅～東京医療センター 他)

※世田谷市民大学受講生用の駐車場はありません。  
(1階にコインパーキングがあります)

※「せたがや がやがや館」は、世田谷区立健康増進・  
交流施設です。市民大学は、施設内の会議室を一部借  
用して開講しています。

### 世田谷区 市民大学・生涯大学事務局

〒154-0001

世田谷区池尻2-3-11 セタがや がやがや館4階

TEL 03-3412-3071 FAX 03-3412-3075

(8:30～17:00 土・日曜日、祝日休)

### 世田谷区 生活文化政策部 市民活動推進課

〒156-0043

世田谷区松原6-3-5 梅丘分庁舎

TEL 03-6304-3176 FAX 03-6304-3597

(8:30～17:00 土・日曜日、祝日休)

## 目次

|                 |     |
|-----------------|-----|
| 学習の方式           | 1   |
| 後期プログラム         | 2・3 |
| 昼間講座の概要         | 4・5 |
| 土曜講座／少人数特別講座の概要 | 6   |

|           |       |
|-----------|-------|
| 運営委員会／評議会 | 7     |
| 今後の予定講座   | 7     |
| 申込みのご案内   | 8     |
| 後期申込書     | (裏表紙) |

# 学習の方式

世田谷市民大学は、月曜日に「政治」・「社会」、金曜日に「経済」・「人間」のコースがあり、それぞれ「ゼミ」と「昼間講座（前期・後期）」で構成されています。

その他、土曜講座（前期・後期）、少人数特別講座（前期・後期）、世田谷市民サマーフォーラム、公開講座などもあります。これらの中から希望の講座を選択し、学習することができます。

**この募集案内では、以下の後期講座について申込みを受け付けます。**

講座の詳細は P2 ～ 6 を、申込み方法等は P8 をご覧ください。

## 募集講座（後期）

| 講座名                             | コース                  | 定員   | 回数  | 内容・受講上の注意                                                                                                  |
|---------------------------------|----------------------|------|-----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 昼間講座                            | 政治<br>社会<br>経済<br>人間 | 各70名 | 12回 | 講師がテーマに沿って講義形式で行います。<br>※講座は希望するコース・時間割の選択制です。<br>(複数受講可)<br>※同日、同時間帯のゼミとの重複受講は不可。<br><div>詳細：P2、4、5</div> |
| 土曜講座                            |                      | 各70名 | 6回  | 土曜日に講義形式で行います。<br>(複数受講可)<br><div>詳細：P3、6</div>                                                            |
| 少人数<br>特別講座                     |                      | 30名  | 6回  |                                                                                                            |
| ※ゼミは前期・後期の通年クラスのため、今回の募集はありません。 |                      |      |     |                                                                                                            |
| ゼミ                              | 全コース                 | 各18名 | 12回 | 講師の指導のもと、発表・討論を行うなど、自主的に学習を進めます。                                                                           |

## その他の講座紹介（別途募集を行います）

| 講座名           | 内容                                                    |
|---------------|-------------------------------------------------------|
| 世田谷市民サマーフォーラム | 7月～8月に行う短期集中型講座で、統一テーマのもと複数回行います。<br>※今年度の募集は終了しています。 |
| 公開講座          | 1月～2月にかけて行う無料の特別講座です。<br>※次回は12月頃募集の予定です。             |

# 2025年度 世田谷市民大学 後期プログラム

※掲載をしている講師の肩書は2025年4月1日現在のものです。

| 曜日  | 日 程                                                                                                                            | 区分   | 時間割   | 講座タイトル                         | 講 師                   |
|-----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|-------|--------------------------------|-----------------------|
| 月曜日 | <b>9月</b><br>1・8・22・29日<br><br><b>10月</b><br>6・20・27日<br><br><b>11月</b><br>10・17日<br><br><b>12月</b><br>1・8・15日<br><br>(全 12 回) | 昼間講座 | 政治1時限 | 文化財をめぐる日本戦後史<br>～運動・学知・開発の観点から | 鈴木 健吾<br>(東京大学学術専門職員) |
|     |                                                                                                                                |      | 政治2時限 | 習近平時代の中国政治                     | 李 昊<br>(東京大学准教授)      |
|     |                                                                                                                                |      | 社会3時限 | 社会学の観点から考える「私」                 | 牧野 智和<br>(大妻女子大学教授)   |
|     |                                                                                                                                |      | 社会4時限 | <衰亡>の文明史<br>～日本と人類の未来を読む       | 吉見 俊哉<br>(國學院大學教授)    |
|     |                                                                                                                                |      |       |                                |                       |

| 曜日  | 日 程                                                                                                        | 区分   | 時間割   | 講座タイトル                              | 講 師                   |
|-----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|-------|-------------------------------------|-----------------------|
| 金曜日 | <b>9月</b><br>5・12・19・26日<br><br><b>10月</b><br>3・10・17・24・31日<br><br><b>11月</b><br>7・14・21日<br><br>(全 12 回) | 昼間講座 | 経済1時限 | 現代の企業<br>～その歩みとその行方                 | 鈴木 良隆<br>(一橋大学名誉教授)   |
|     |                                                                                                            |      | 経済2時限 | 大都市東京の形成史<br>※1                     | 鈴木 智行<br>(国士舘大学専任講師)  |
|     |                                                                                                            |      | 人間3時限 | 戦後日本の知識人と市民運動                       | 和田 悠<br>(立教大学教授)      |
|     |                                                                                                            |      | 人間4時限 | 子どもに関わる諸関係を考える<br>：歴史社会的な視点から<br>※2 | 小玉 亮子<br>(お茶の水女子大学教授) |

| 曜日  | 日 程                                                              | 区分           | 時間割                | 講座タイトル                | 講 師                 |
|-----|------------------------------------------------------------------|--------------|--------------------|-----------------------|---------------------|
| 土曜日 | <b>10月</b><br>4・11・18・25日<br><br><b>11月</b><br>1・8日<br><br>(全6回) | 土曜講座・少人数特別講座 | 土曜講座<br>2時限        | アメリカ政治とメディア           | 清原 聖子<br>(明治大学教授)   |
|     |                                                                  |              | 少人数<br>特別講座<br>3時限 | 宗教と社会<br>～社会学はこう考える   | 奥井 智之<br>(亜細亜大学教授)  |
|     |                                                                  |              | 土曜講座<br>4時限        | 国際政治とグローバル市民社会<br>の構想 | 竹中 千春<br>(立教大学兼任講師) |

## 【講義時間】

|                         |     |               |
|-------------------------|-----|---------------|
| 昼間講座<br>土曜講座<br>少人数特別講座 | 1時限 | 9時20分～10時40分  |
|                         | 2時限 | 11時00分～12時20分 |
|                         | 3時限 | 13時10分～14時30分 |
|                         | 4時限 | 14時50分～16時10分 |

### ※1

経済2時限「大都市東京の形成史」の10月24日及び11月21日の講座は休講の予定です。  
11月28日(金)12月5日(金)の同時刻に補講を予定しております。

### ※2

人間4時限「子どもに関わる諸関係を考える:歴史社会的な視点から」の9月26日の講座は休講の予定です。  
11月28日(金)の同時刻に補講を予定しております。

上記講座以外にも、都合により講義日に変更が生じた場合は、基本的に最終回の翌週以降の同曜日、同時間に補講を行います。

## 政治コース

### 1 時限 文化財をめぐる日本戦後史 ～運動・学知・開発の観点から (鈴木 健吾)

東京西郊を散策していると、公園管理事務所に縄文土器が展示されていたりします。「地の記憶」について想像力を往古に及ぼしたくなりますが、このような風景自体が日本戦後、しかも高度成長期から安定成長期にかけての文字通りの「現代」にもたらされたものです。

敗戦による日本の価値観の変化は学知にも及びました。例えば歴史学、特に原始・古代の研究や認識が皇国史観の崩壊に伴い考古学や人類学の学問的地位の向上に伴って登呂遺跡や岩宿遺跡の発掘を考えるときに明らかでしょう。一方、戦後10～15年を経て始まった高度経済成長と列島開発の中、多くの遺跡・遺物（埋蔵文化財）が破壊され「文化財保存運動」と呼ばれる運動が昭和50年（1975年）の文化財保護法改正まで活発に展開されました。学問と運動と制度が輻輳する中に戦後世界の中でも指折りの変化を遂げた「開発の時代」の日本の姿が見える、という講師の研究への我田引水に過ぎるでしょうか。

本講義では高度成長期～安定成長期に埋蔵文化財領域・列島開発を対象に展開された「文化財保存運動」という社会運動の歴史的な考察を中心に①列島開発に伴う考古学という学問の規模や手法の急激な変化と（学知）②住民運動から学生運動まで多様な形態で展開される文化財保存運動の様相（運動）③団地などの急激な地域開発の中での都市工学など開発側からの文化財の保存の試み（開発）の三つの視点から分析していきます。今や多くの基礎自治体に担当職員がいる考古学が「食えない学問」と呼ばれた決して昔ではない時代に旅立ってみませんか。

### 2 時限 習近平時代の中国政治 (李 昊)

2012 年以来、中国の習近平政権は急速に権力を強化し、強権的な政治を展開しています。本講座では、習近平時代になって、大きく様変わりしている中国の政治について広く議論します。

習近平の権力強化過程、統治手法、政策、外交などについて学びたいと思います。なぜ習近平は強力な個人支配体制を確立できたのか。胡錦濤政権とどのような違いがあるのか。習近平政権下の日中関係はどうなるのか。こういった様々な問題について、考え、じっくり議論して参りたいと思います。

（各回の内容は変更する場合があります）

- 第 1 回 現代中国政治入門
- 第 2 回 なぜ習近平が選ばれたのか
- 第 3 回 反腐敗闘争
- 第 4 回 トップレベルデザイン
- 第 5 回 派閥と人脈
- 第 6 回 イデオロギー
- 第 7 回 人民解放軍
- 第 8 回 習近平は毛沢東の再来か
- 第 9 回 市民社会
- 第 10 回 経済政策
- 第 11 回 外交戦略
- 第 12 回 日中関係

## 社会コース

### 3 時限 社会学の観点から考える「私」 (牧野 智和)

この講義では、社会学のさまざまな観点から「私」という存在について考えていきたいと思います。具体的には、社会学の理論や資料分析の成果から「私」の成り立ちを考えたり、アンケート調査やインタビュー調査の分析から「私」の個別具体的なあり方を考えたりしていきます。

- 第 1 回 「自己の社会学」の基礎的な考え方
- 第 2 回 「アイデンティティ」と社会
- 第 3 回 社会学理論から考える現代のアイデンティティ①
- 第 4 回 社会学理論から考える現代のアイデンティティ②
- 第 5 回 「自己」の成り立ちを歴史的に考える①
- 第 6 回 「自己」の成り立ちを歴史的に考える②
- 第 7 回 語られる自己（理論編）
- 第 8 回 語られる自己（分析編）
- 第 9 回 「自分を書く」こと社会学
- 第 10 回 「自己」への向き合い方の近代史
- 第 11 回 「自己啓発」が浸透する現代社会
- 第 12 回 調査データから考える現代のアイデンティティ

### 4 時限 〈衰亡〉の文明史 ～日本と人類の未来を読む (吉見 俊哉)

21 世紀、人類史は大きな転換期を迎えている。一言で言うなら、〈成長〉の時代から〈衰亡〉の時代への転換である。この大転換の原因は、18 世紀末以降の産業革命がすでに地球環境の臨界に達し、「成長の限界」に至ったことだ。文明全体としてももう大きな成長がない以上、地球社会は今後、数世紀にわたる成熟ないし衰亡に向かう。その長い衰亡期を私たちはいかに理解すべきか。この講義では、文明史がこれまで経験してきた主に3つの衰亡期、①ローマ帝国、②古代中国、③西洋世界を取り上げつつ、これから始まる④アメリカの衰亡をも検討する。これは、〈衰亡〉の比較社会学序説とでも言うべき試みだが、右肩上がりの発展期以上に長く緩やかな衰亡期は、そこに生きる人々にとって文化的・精神的に充実したものになり得ることを示したい。

- 第 1 回 〈衰亡〉する日本
- 第 2 回 〈衰亡〉の比較社会学序説
- 第 3 回 〈衰亡〉するローマ帝国Ⅰ
- 第 4 回 〈衰亡〉するローマ帝国Ⅱ
- 第 5 回 〈衰亡〉する中華帝国：唐代から宋代へⅠ
- 第 6 回 〈衰亡〉する中華帝国：唐代から宋代へⅡ
- 第 7 回 〈停滞〉する西洋中世
- 第 8 回 〈停滞〉する西洋近世
- 第 9 回 〈崩壊〉するオスマン帝国と清帝国についての試論
- 第 10 回 〈衰亡〉する西洋近代についての試論
- 第 11 回 〈衰亡〉するアメリカⅠ
- 第 12 回 〈衰亡〉するアメリカⅡ

経済コース

1 時限 現代の企業  
～その歩みとその行方（鈴木 良隆）

次の時代の日本はどのようにして食べていくのだろうか。産業は競争力を維持できるのか。地方はこのまま人口流出が続いてさびれるのだろうか。次の世代の人たちは、自分にふさわしいと思えるような仕事に就けるのだろうか。21世紀に入って次第にはっきりと姿を現したこれらの「心配ごと」は、互に関係しあっている。「企業」はそのために何ができ、わたしたちは次世代のために何ができるか。

こうした問題について、現代の企業のこれまでの歩みから、これからの可能性について考えます。各回、一つの主題を取り上げ、事実によって常識や通念を見直し、質疑・討論を行います。毎回、次回の「要旨」をあらかじめ配付しますので、特別の予備知識は不要です。

- 第1回 はじめに—過去を通して未来をみる(9.05)
- 第2回 大企業とその時代—米、欧、日本(9.12)
- 第3回 大企業の時代における中小企業(9.19)
- 第4回 株式会社—理念と現実(9.26)
- 第5回 「会社勤め」と「終身」雇用1920-80年(10.03)
- 第6回 大企業の存亡1985-2000年(10.10)
- 第7回 仕事と企業(10.17)
- 第8回 女性と企業(10.24)
- 第9回 地域と企業(10.31)
- 第10回 生き残る企業(11.07)
- 第11回 ソーシャル・エンタプライズ(11.14)
- 第12回 明日の企業—その可能性(11.21)

2 時限 大都市東京の形成史（鈴木 智行）

本講義では、日本を代表する巨大都市であり、首都でもある東京が、歴史的にどのように形成されてきたかについて、説明していきます。

大都市としての東京の起源は、近世都市江戸にさかのぼりますが、近世都市江戸は、その範囲や都市構造といった点で、現在の東京とはずいぶん違った都市でした。現在われわれが都市東京といったときに思い浮かべるのは、都心の高層ビル群や、行政域を越えて広がっていく住宅地といった景観ではないでしょうか。こうした東京の都市景観や都市構造が萌芽的に形成されたのは、今からおよそ百年前の両大戦間期とよばれる時期になります。本講義ではこの両大戦間期の時期を中心に、東京の都市空間の形成過程について、見ていきたいと考えています。

- 第1回 江戸から東京へ
- 第2回 都市域拡大の前提①—丸の内地区の高層化の起源
- 第3回 都市域拡大の前提②—東京駅の開業と丸の内地区
- 第4回 都市東京の変容と関東大被害
- 第5回 日本における都市化の進展と第一次世界大戦
- 第6回 都市域拡大の前提③—丸ビル前夜の丸の内
- 第7回 拡大する都市とどう向き合うか—都市計画法制定
- 第8回 関東大震災と復興事業
- 第9回 自動車社会に備える①—明治通りの建設
- 第10回 自動車社会に備える②—環状放射道路計画の策定
- 第11回 都市住環境問題の発生と地域社会
- 第12回 都市工業地区の形成と地域社会

人間コース

3 時限 戦後日本の知識人と市民運動  
（和田 悠）

戦後日本の社会を「市民」という視点から見つめ、その歴史的な特徴を考えます。「市民」は戦後日本における人間形成を考えるうえで重要なキーワードで、人間形成とは、戦争体験をふまえ、平和と民主主義の理念を学び、主権者として自己を形づくっていく歴史的課題でした。

自己を形成するものとしての教育は、学校教育にとどまりません。本講義では、戦時下に学校教育を通じて「小国民」として育った人びとが、戦後にどのように平和と民主主義の担い手となっていったのかに照準を合わせますが、この課題は、自らを教育し直すという意味で「自己教育」の問題であり、その場合は地域民主主義の実践や社会運動の取り組みのなかにもありました。社会全体に関わる課題だったのです。

戦後日本のリベラルな知識人たちは、「市民」的な人間形成を大きな課題と捉えていました。しかし、そのアプローチは社会の変容とともに変化していきます。本講義では、「市民」的な価値を啓蒙しようとした知識人の自己認識と他者認識（教育観・民衆観）の変化をたどります。

その際に、『私は赤ちゃん』『育児の百科』の著者として知られ、民衆との接点でリベラルな思想を展開した松田道雄を中心に取り上げます。高度成長期の保育運動への彼の関わりにも注目し、保育という人間形成の問題にも考察を加えます。さらに、松田と親交のあった久野収、小田実、鶴見俊輔などを取り上げ、戦後日本の人間形成を多角的に捉えます。

4 時限 子どもに関わる諸関係を考える  
：歴史社会学的な視点から（小玉 亮子）

子どもという言葉には、対になる言葉があります。例えば、大人と子ども、親と子といったように。大人がいるから子どももいますし、親がいるから子どもがうまれます。しかし、実は、この逆も同じようにいえます。子どもの時代がなければ、大人にはなりません。子どもがいないと、親にはなりません。生徒がいてはじめて、教師になるともいえます。ここから、子どもは様々な関係のなかで存在しているのと同時に、大人も、人間それ自体も、様々な関係のなかにあると考えることができると思います。このような立場から、本講義では、子どもをとりまく諸関係が、現在、どのようなになっているのか、そこにどのような課題があるのかを考えていきます。

現在の問題を考えるために、あえて、時間的・空間的に視野を拡大して、歴史社会学的な視点から検討してみようとおもいます。一体、わたしたちの現在は、どのような歴史的経緯をたどってきたのか、そして、それは、私たちだけの問題なのか、あるいは、もっと広く国際的な、ないしは地球規模の問題とも関連しているのではないか、ということに注目したいと考えています。

そのために、本講義では、いくつかの映画を手がかりに検討していきます。予定している映画は、次のようなものです。「奇跡の人」(1962)、「千と千尋の神隠し」(2001)、「ファニーとアレクサンデル」(1982)、「21世紀少年」(2008)、「ニューシネマ・パラダイス」(1988)、「オリバーツイスト」(1948)、「もののけ姫」(1997)、「フランケンシュタイン」(1931)ほか、です。もし、ご関心のある映画があったら、あるいは、詳しい映画がありましたら、ぜひ、一緒に考えていければ、と思っています。

## 土曜講座

**2 時限** アメリカ政治とメディア  
(清原 聖子)

アメリカ政治は過去 50 年の間に、保守とリベラルのイデオロギー対立が激しくなり、徐々に分極化が進んできました。2024 年のギャロップ調査の結果によれば、アメリカ人の多くは、重要な価値をめぐって国家が分断されている、と考えています。「なぜ政治的分極化が進んだのか?」「なぜアメリカは分断されたのか?」—こうした問に対してこれまで研究者は様々な要因を指摘してきました。この講座では、メディアを手がかりに、分極化というアメリカ政治の現状に対する理解を深めていきます。

授業の前半では、アメリカのメディアがどのように発展してきたのか、歴史的な経緯を紐解き、現在のメディア環境の特徴、すなわち、メディアの分極化について解説します。さらに、アメリカ人の間で深まるメディア不信やフェイクニュース（偽・誤情報）の問題など、メディアの分極化が社会に及ぼす影響についても紹介します。アメリカでも日本同様に、若年層では「新聞離れ」や「テレビ離れ」の傾向があり、インターネットやソーシャルメディアで政治情報を得る若者が増えています。その点を意識して、授業の後半では、選挙キャンペーンにおけるソーシャルメディアの役割についても具体的な事例を基に検討します。

最後に、本講座では、質疑応答やディスカッションの時間をできるだけ取り、日本との比較を意識して、アメリカ政治とメディアの関係について受講生の皆さんと一緒に考えていきたいと思います。

**4 時限** 国際政治とグローバル市民社会の  
構想 (竹中 千春)

世界金融危機、気候変動、パンデミック、ウクライナ戦争、イスラエル・パレスチナ紛争と衝撃的の事件が続きます。2024 年多くの国々で独裁的な指導者が再選され、アメリカでは移民排斥と「偉大なアメリカの復興 (MAGA)」を掲げるトランプ氏が大勝しました。2025 年現在、民主主義と国際協力を壊すアメリカの政策が世界を動揺させています。

かつてグローバリゼーションは世界を一つにすると説かれましたが、最近は分断の加速が焦眉の課題です。中国やインドなどの新興国が台頭する一方で、先進大国も含めて格差拡大と貧窮化が進み、人々の憤怒が外国、国際社会、移民・マイノリティ・女性などに向けられ、貧困と暴力の連鎖が止みません。世界恐慌や世界戦争を避けられるか。いったい人類は生き延びられるのか。グローバルな複合危機を乗り越え持続可能な社会をつくれるか。インド史と国際政治学を学んできた視点から、一緒に「市民の知」を探究していきます。

- 第 1 回 グローバルな複合危機と市民社会：パンデミックと気候変動
- 第 2 回 国家は豊かさを守るか：世界恐慌は避けられるか
- 第 3 回 国家は平和を守るか：世界戦争は避けられるか
- 第 4 回 国家は人権を守るか：移民・マイノリティ・女性
- 第 5 回 女盗賊プーラン・デーヴィー  
：国家、民主主義、無法者
- 第 6 回 ガンディー 平和を紡ぐ人：暴力の連鎖を解く鍵

## 少人数特別講座

**3 時限** 宗教と社会  
～社会学はこう考える (奥井 智之)

本講は、特定の宗教に深くコミットしている人々ではなく、その反対のカテゴリーに属する人々を対象に、「宗教とは何か」について明快な見取図を提示することを目標としている。講師は社会学者で、宗教は社会の産物であるとの視点から、宗教現象を社会学的に読み解いていく。

講師の関心は多岐にわたるが、本講では「宗教」「教団」「儀礼」「芸術」「スポーツ」「新しい宗教」の 6 つの主題を取り上げる。なお、講師の『宗教社会学』では、ほかに「信仰」「政治」「経済」「学問」「セクシュアリティ」「生と死」という 6 つの主題も取り上げている。

本講の関心は、宗教的迷妄を打破することではなく、人々の宗教的結合が、社会的結合の根源をなしていることを明らかにすることにある。と同時に「神なき時代」としての現代において、人々の社会的結合がいかなる様相を呈しているかを問うことが、本講の実践的な関心である。

- 第 1 回 宗教 —— 1 つの神を信奉する人々の結合
- 第 2 回 教団 —— 信者が構成する「1 つの身体」
- 第 3 回 儀礼 —— どう行動するかを皆で共有する
- 第 4 回 芸術 —— 神を荘厳し讃美するための技術
- 第 5 回 スポーツ —— 神の前で競い合い讃え合う
- 第 6 回 新しい宗教 —— 「神なき時代」を生きる

# 世田谷市民大学運営委員会／評議会

2025年4月1日現在

学 長 吉見 俊哉（國學院大學教授）  
運営委員長

運営委員 浅子 和美（一橋大学名誉教授）  
小川 有美（立教大学教授）  
荻部 直（東京大学教授）  
高嶋 修一（青山学院大学教授）  
高原 明生（東京女子大学特別客員教授）  
滝澤 美帆（学習院大学教授）  
玉野 和志（放送大学教授）  
辻 泉（中央大学教授）  
広岡 守穂（中央大学名誉教授）  
山梨 あや（慶應義塾大学教授）

評 議 員 馬場 康雄（東京大学名誉教授）  
間宮 陽介（京都大学名誉教授）  
米山 光儀（慶應義塾大学名誉教授）  
和田 あき子（ロシア文学研究者）

## 今後の予定講座（2025 年度）

### 公 開 講 座

広く一般区民の方を対象として年2～3回行われる特別講座です。2026年1月～2月にかけて実施予定です。日程、講師、講座名などの詳細は、「区のおしらせ せたがや」や「世田谷区ホームページ」等でその都度お知らせします。（事前申込み制・無料）

### 受講生企画会議について

「土曜講座」の一部、「少人数特別講座」及び「世田谷市民サマーフォーラム」、「公開講座」については、『受講生企画会議』において受講生自らが企画し、上記の市民大学運営委員会に提案を行っています。

『受講生企画会議』に参加希望の方、または詳細につきましては「2025年度 受講生企画会議員募集のご案内」（市民大学事務局受付にて配架中）をご覧ください。

# 申込みのご案内

## 募集対象

### 18歳以上の区内在住・在勤・在学の方

※在勤・在学の証明書をご提示いただく場合がございます。  
在学者とは世田谷区内の学校教育法第1条に規定される  
学校に在籍している方を対象とし、大学の聴講生や各種社  
会人講座を含むカルチャーセンター等の受講生は対象とな  
りません。

## 申込み方法

### (1) 裏表紙の申込書利用の場合

必要事項を記入の上、世田谷市民大学あてに郵送  
ください。

※必ず 85 円切手を貼ってお出してください。

### (2) 郵便はがきまたはFAX利用の場合

裏表紙の申込書と同様の内容を記入の上、世田  
谷市民大学あてに郵送またはFAXでお申込みく  
ださい。

### (3) オンライン手続き利用の場合

「東京共同電子申請・届出サービス」より、お申込  
みください。

二次元コード→  
(募集期間外は表示されません)



※オンライン手続きで入力いただいたメールアドレスへ  
突発的な休講等の連絡をする場合があります。予め  
ご了承ください。

## 後期募集期間

|         |                       |
|---------|-----------------------|
| 昼間講座    | 7月1日(火)～15日(火)<br>※必着 |
| 土曜講座    |                       |
| 少人数特別講座 |                       |

## 募集定員

|         |           |
|---------|-----------|
| 昼間講座    | 1講座につき70名 |
| 土曜講座    | 1講座につき70名 |
| 少人数特別講座 | 1講座につき30名 |

※定員を大幅に下回るときは、中止になる場合があります。  
申込みが多数の場合は、抽選により受講者を決定します。  
抽選の場合、初めて市民大学に申込みれる方を優先します。

## 受講料

|         |                                                           |
|---------|-----------------------------------------------------------|
| 昼間講座    | 1講座につき 7,000円<br>※ゼミ受講中の方は割引制<br>度があります。詳細は下記<br>をご覧ください。 |
| 土曜講座    | 1講座につき 5,000円                                             |
| 少人数特別講座 | 1講座につき 5,000円                                             |

※ゼミ受講中の方の割引制度について

- ・ゼミと昼間講座を併せて受講されると、昼間講座の受  
講料が割引になります。
- ・昼間講座1講座につき 3,500 円 (2 講座まで) 2 講座を  
超える場合は3講座目から、1講座につき 6,000 円にな  
ります。

※ゼミは通年での実施となるため、後期での募集はございま  
せん。

## 受講者の決定・受講料の支払い

◎8月中旬頃に、申込者全員に受講可否の通知と納  
入通知書を郵送します。受講可否についての問合  
せはご遠慮ください。

◎納付された受講料は原則として、お返しできませ  
ん。

### 《後期講座の追加募集について》

申込締切日以降、定員に満たない講座は、  
8月6日(水)まで先着順で追加募集します。  
下記番号にお問合せください。

※各講座先着順で、定員に達し次第締切ります。

**TEL 03-3412-3071**

受付時間 8:30～17:00  
土・日曜日・祝日はお休みです。

## 2025年度 後期申込書

### 注意事項

- 講義の録音・撮影、資料の複製は禁止です。
- 授業の妨害行為(録音・撮影含む)が行われていると市民大学が判断した場合は、その場で教室から退室いただきます。原則としてその後の講義も受講いただけません。
- 諸般の事情により、講義内容、回数、日程等に変更が生じる場合があります。

希望の講座に○印をつけてください。

### 【昼間講座】

| ○印 |  | 時限     | 講座名                            |
|----|--|--------|--------------------------------|
| 政治 |  | (月)1時限 | 文化財をめぐる日本戦後史<br>～運動・学知・開発の観点から |
|    |  | (月)2時限 | 習近平時代の中国政治                     |
| 社会 |  | (月)3時限 | 社会学の観点から考える「私」                 |
|    |  | (月)4時限 | < 衰亡 > の文明史<br>～日本と人類の未来を読む    |
| 経済 |  | (金)1時限 | 現代の企業<br>～その歩みとその行方            |
|    |  | (金)2時限 | 大都市東京の形成史                      |
| 人間 |  | (金)3時限 | 戦後日本の知識人と市民運動                  |
|    |  | (金)4時限 | 子どもに関わる諸関係を考える<br>：歴史社会的な視点から  |

## 2025年度 後期申込書

希望の講座に○印をつけてください。

### 【土曜講座】

| ○印 | 日程                                   | 時限   | 講座名                   |
|----|--------------------------------------|------|-----------------------|
|    | 10/4・11・18・25<br>11/1・8<br>(土曜日・全6回) | 2 時限 | アメリカ政治とメディア           |
|    | 10/4・11・18・25<br>11/1・8<br>(土曜日・全6回) | 4 時限 | 国際政治とグローバル市民<br>社会の構想 |

### 【少人数特別講座】

| ○印 | 日程                                   | 時限  | 講座名                 |
|----|--------------------------------------|-----|---------------------|
|    | 10/4・11・18・25<br>11/1・8<br>(土曜日・全6回) | 3時限 | 宗教と社会<br>～社会学はこう考える |

郵便はがき

85円

※切手を貼ってください

154-0001

世田谷区池尻 2-3-11  
せたがや がやがや館 4 階  
世田谷市民大学 行

後期【昼間講座用】

|                                                             |                                |  |                 |
|-------------------------------------------------------------|--------------------------------|--|-----------------|
| ふりがな                                                        |                                |  | 生 年 月           |
| 氏 名                                                         |                                |  | 大正 昭和 平成<br>年 月 |
| 住 所                                                         | 〒                              |  |                 |
| 電話番号                                                        | ※日中に連絡のとれる電話番号をご記入ください（携帯電話も可） |  |                 |
| 区 内 在 勤・在 学 の 方<br>勤務先、学校名を記入してください。                        |                                |  |                 |
| 市民大学受講経験の有無<br>㊦の方は受講者番号を記入してください<br>(受講者番号が不明の場合、記入は不要です。) | 有 ・ 無                          |  |                 |
|                                                             | 受講者番号                          |  |                 |

- 必要事項を記入の上、  
ご郵送ください。  
※85円切手を必ず貼ってお出してください。

- 申込期間  
7月1日(火)～7月15日(火)  
(7月15日必着)

- 提供された個人情報は、  
市民大学の運営にのみ利用します。

郵便はがき

85円

※切手を貼ってください

154-0001

世田谷区池尻 2-3-11  
せたがや がやがや館 4 階  
世田谷市民大学 行

後期【土曜講座・少人数特別講座用】

|                                                             |                                |  |                 |
|-------------------------------------------------------------|--------------------------------|--|-----------------|
| ふりがな                                                        |                                |  | 生 年 月           |
| 氏 名                                                         |                                |  | 大正 昭和 平成<br>年 月 |
| 住 所                                                         | 〒                              |  |                 |
| 電話番号                                                        | ※日中に連絡のとれる電話番号をご記入ください（携帯電話も可） |  |                 |
| 区 内 在 勤・在 学 の 方<br>勤務先、学校名を記入してください。                        |                                |  |                 |
| 市民大学受講経験の有無<br>㊦の方は受講者番号を記入してください<br>(受講者番号が不明の場合、記入は不要です。) | 有 ・ 無                          |  |                 |
|                                                             | 受講者番号                          |  |                 |

問合せ先

世田谷市民大学事務局  
TEL 03-3412-3071

※8:30～17:00(土・日曜日・祝日は休み)

お知らせ

2026年度前期(4～7月)に開講する講座は、2026年2月上旬から募集を行う予定です。